

享保九年御尋之御請

竹嶋願書摺

村川市兵衛

大屋九右衛門

（白紙）

第御一箇條之御請

一 元禄五壬申年二月十一日從米子出船  
 嶋後福浦江着岸、三月廿四日從福浦  
 出船、同廿六日朝五ツ時ニ竹嶋之内いか嶋与  
 申所江着船仕様子見申候得者、鮑大分取  
 上ヶ申様ニ相見江不審奉存、同廿七日朝  
 浜田浦江参申内ニ唐船式艘相見申候、内

4

壱艘者すヘ船・壱艘者浮船ニ而居申候唐人  
 三拾人計見江申候、右之浮船ニ乗り此方之  
 船より八九間程沖を通り大坂浦与申所ニ廻り  
 申候、右之内兩人者陸ニ残居申候所又小船ニ  
 乗り参申候故此方之船ニ乗り申候而何国之  
 もの与相尋候得者一人者通辞ニ而ちやうせん  
 国かわてんかわべの者与申候故此嶋之儀者

5

元来日本之地ニ而従

御公方様代々拝領仕毎年渡海いたし候

嶋ニ而候処ニ何とて其方共参候哉与相尋候得者

従此嶋北ニ当り嶋有之三年ニ一度宛

國主之用ニ而鮑取ニ参候、國元者一月廿一日ニ

類船拾壱艘ニ而致出船難風ニ逢五艘ニ

以上五拾三人乗り此嶋三月廿三日ニ流着

此嶋之様子見候得者鮑有之候間致逗留

鮑取上ヶ候由申候、左候得者此嶋を早々罷立候  
 様ニど申候得者船茂少損シ候故造作仕調

次第ニ出船可仕候間其元御船是江御すへ

6

可被成<sub>与</sub>申候得共、此方<sub>ニ茂</sub>船をハすへ不申先人計陸江上り見分仕候処、兼而此方より拵置候諸道具獵船八艘見江不申候<sub>ニ</sub>付通辞江段々

吟味仕候得<sub>者</sub>浦々江廻し遣候由申候、先此方之船すへ申様<sub>ニ</sub>と申候得共、唐人<sub>者</sub>大勢此方<sub>者</sub>纏武拾壱人<sub>ニ而</sub>御座候付無心元奉存從竹嶋

三月廿七日之七ツ時出船仕申候、然共何<sub>ニ而茂</sub>印無御座候<sub>而</sub>者如何<sub>与</sub>奉存唐人之拵置候

串鮑少・笠壱ツ・網頭巾壱ツ・味噌かうじ壱玉取致出船、四月朔日<sub>ニ</sub>石州濱田浦江

着船仕、夫より当四日雲州雲津浦迄参

翌五日七ツ時分米子江入津仕候、右之趣<sub>ニ</sub>元禄五年壬申四月六日竹嶋渡海之船頭

水主共口上<sub>ニ</sub>申候、右唐人弓鉄炮所持不仕候哉<sub>与</sub>御尋被為遊候、其節吟味仕候處惣<sub>而</sub>武具之類所持不仕候

#### 第一御二箇條之御請

元禄六癸酉年二月下旬米子出船雲州

雲津江着岸三月初頃雲津より出船隱岐国

嶋後福浦江參着四月十六日四ツ時福浦

出船同十七日八ツ時竹嶋江參着仕候處唐人

大分居申候付陸江上り段々吟味仕候處

不埒之申方<sub>ニ</sub>付頭<sub>与</sub>相見江申候もの壱人

下方之者壱人以上兩人召連竹囃を同十八日

八時<sub>ニ</sub>出船仕同廿七日罷戻り申候<sub>而</sub>早速

鳥取江御注進申上候處江戸江御伺被為遊

右兩人を長崎江被遣候、其後戊亥兩年

渡海仕候得共唐人大分居申候<sub>ニ</sub>付所務

不仕帰帆仕候

#### 第二御三箇條之御請

竹嶋有之品々委細書付指上候様<sub>ニ</sub>被為

仰付候<sup>ニ</sup>付古来渡海之船頭水主共江相尋  
候処見知候物迄品々書留置候付此度左之  
通書付差上申候

木竹之類

12 一 五葉之松 一 梅檀 木の葉の色  
黒赤く実ハ  
くちなしの  
白キもの御坐候

一 たいたら 一 きわだ  
椿 梅

13 一 桐 一 がび  
草之類  
にんしん  
ふき  
うと  
ぼう  
ぐみ  
いたどり  
しんしや 岩ろくしやうの様の物御座候へ共  
猶迄<sup>ニ</sup>心掛申<sup>ニ</sup>付此段<sup>者</sup>聴<sup>与</sup>知不申候

14 一 まの竹 一 竹  
葉もみの葉の  
じとく木の色赤

一 めうが  
ゆり  
あをきは

15 一 いちご

宜香仕候、其外<sup>ニ茂</sup>珍敷物も可有御座<sup>与</sup>  
奉存候得共深山<sup>ニ而</sup>山之内<sup>江者</sup>ふかく参り  
難キ由申候

15

一 竹嶋東西廣サ之儀竹木重り相知レ  
不申由并嶋廻り<sup>者</sup>凡拾里余も可有御坐  
哉<sup>与</sup>水主共申候、絵図之儀<sup>者</sup>別紙差上申候

第御四箇條之御請

一 竹嶋東西廣サ之儀竹木重り相知レ  
不申由并嶋廻り<sup>者</sup>凡拾里余も可有御坐  
哉<sup>与</sup>水主共申候、絵図之儀<sup>者</sup>別紙差上申候

第御五箇條之御請

一 竹嶋ニミチ魚之外獸類有之哉与  
御尋被為遊候、左之通書付差上申候

鳥獸之類

一	みち魚	一	ね」
一	鼠	一	山雀
一	雀	一	あな鳥
一	鳩	一	ひよ鳥
一	かわらひわ	一	四拾雀
一	かもめ	一	鶴
一	なぢゝ	一	つばめ
一	鷺	一	くまたか

其外鷹之類

第御六箇條之御請

一 唐人相渡候時節伯耆之國より相渡候  
時節与違候哉与御尋被為遊候、古來從  
此方者一三月ニ渡海七月上旬ニ帰帆仕候  
年々渡海之節吟味仕見申候処、從此方

19 彼嶋小屋之内ニ因置候諸道具、舡船等  
少茂取散候様子相見江不申候間唐人共  
前々渡海仕候儀者無御座与奉存候、但元禄  
五年壬申三月ニ唐人初而渡海仕候様ニ  
奉存候、然共唐人渡海之時節者不奉  
存知候

第御七箇條之御請

一 伯耆国より竹嶋迄渡海之數里并  
従竹嶋朝鮮江渡海之數里御尋  
被為遊候、米子より竹嶋江者百四五拾里  
竹嶋より朝鮮江者四拾里程可有御坐  
候様ニ水主共申候 伯耆国濱野目三柳村より  
但 隠岐国嶋後江三拾五六里

御坐候、竹嶋より朝鮮山を見渡  
候所少遠相見へ候故四拾里

程と申上候

21

右之通此度御尋被為遊候付古來  
書留置候趣相殘水主共江相尋書付  
指上申候、以上 伯州米子町人  
大谷九右衛門

享保九甲辰年閏四月三日

伯州米子町人

村川市兵衛

3 - 22 - 2

(表紙ノ間ニ挿)

覓

一 村川方旧記十四冊  
之内六冊返し申候  
残八冊今少し御預り申候

一 篠笥之内ニ有之書類入

之箱二ツ無據入用之所

御座□□